

<全体分析>

試験時間 2科目 150分

解答形式

選択, 完成, 記述(答えのみ)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

・昨年度と比べて, 計算問題で処理に時間のかかるものがやや増えた。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・よく練られた良問が多く, 受験生の実力が発揮できる問題構成であった。
- ・制限時間に比べて分量は多く, 問題の処理速度が求められた。

その他トピックス

・有機化学で構造決定の問題が出題されなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度	
1	I	選択・完成・計算 記述	原子, 化学結合, 実在気体	化学基礎 化学	問1 基本的な内容である。ここでしっかり得点したい。 問2 「自由に動ける体積」と「排除体積」の違いを本文から正確に読み取る必要がある。与えられた式を利用すれば解答できる。	標準
	II	選択・完成・計算 記述	化学平衡, 反応速度	化学基礎 化学	今回の試験では, 最も計算量が多いので注意が必要である。問3 酢酸とエタノールのエステル化の際に平衡定数を考える場合, 生成する水の濃度は無視(省略)できないことに注意する。(3) 選択肢の値を平衡定数の式に代入すると速く解答できる。問4 (3) (D)より反応初速度が小さいものをグラフから判断する。	やや難
2	I	選択・完成・計算 記述	無機化学 (アルミニウム, ケイ素)	化学基礎 化学	全体的には基本的な内容である。問6 (2)本文から「電気的中性」を理解する必要がある。計算は難しくはない。	標準
	II	選択・完成・計算 記述	無機化学 (硫黄とその化合物), 電池	化学基礎 化学	全体的には頻出の知識問題である。問5 (2)見慣れない電池であるが, 本文から電気量 [Ah] の意味を理解し, 単位換算に気をつければ解答できる。	標準
3	I	選択・完成・記述	有機化合物 (炭化水素), 異性体	化学基礎 化学	本文の条件「直鎖構造」「シス-トランス」の区別に注意して異性体を数える必要がある。問3 プロペンからは 1,3-ジブロモプロパンは得られないことから, シクロプロパンを推定する。	標準
	II	選択・完成・記述	アミノ酸・タンパク質	化学基礎 化学	全体的には頻出の内容である。問3 酵素カタラーゼとリパーゼとその働きに関して覚えている必要がある。問4 (2)アミノ酸の電離平衡について, 理解している必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・理論，無機，有機を万遍なく学習し，教科書を中心に基本をマスターする。不得意分野をつくらないこと。
- ・合格に必要な学力は，ほぼ一定である。そして，合格点を取る近道は，基本～標準問題で得点を重ねることである。時々出題される難問に目が行きがちだが，ほとんど差がつかないのでこだわり過ぎない方がよい。
- ・標準問題を中心に問題演習を十分に行うこと。特に，速く正確な計算力を身に付けておきたい。
- ・制限時間内で，試験問題全体を見渡し，解答する順番に気をつけて要領よく処理していく練習もしておくとい。